芸豪烈伝その12

春日井梅鶯（かすがい・ばいおう）

父親との葛藤からつかんだ成熟した芸

写真・森　幸一ほか　文・おさだ権四郎

かすがい・ばいおう　本名、安藤和子。歌劇の声楽家を志すも、先の戦争で志望する音楽学校が封鎖して果たせず。父の初代・春日井梅鶯の節に心酔し浪曲家をめざす。昭和26年、春日井加寿子（かずこ）としてデビュー。昭和50年、二代目梅鶯を襲名。現在、日本浪曲協会の副会長の重責を担う。千葉県在住。趣味は料理。

『カラマーゾフの兄弟』（ドストエフスキー）『岳物語』（椎名誠）『杜子春』（芥川龍之介）など、親子を扱った文学作品は多い。親と子、という永遠のテーマを人間は避けて通れない。

春日井梅鶯の場合は、偉大な父を持った幸運と不幸だ。

「3回ほど死のうと思いましたよ、つらくて悲しくて」

梅鶯師の父親は、いわずと知れた先代の春日井梅鶯。現・梅鶯は二代目だ。

「昭和24年から先代と私の二枚看板で13年間、全国を巡業しました。その13年間、勉強にもなりましたが、つらいこともたくさんありました」

指導してくれるのが一代の芸豪で実の父親。浪曲の道に入ったのは自分の意思。弱音は吐かない、頑張り通そうと決意はしていたが……。

「先代の怒り方が尋常じゃないんです。畳のヘリを踏んでも叱られました。手紙も書式がちょっと間違っていても責められました。それは、こちらの落ち度ですから納得できますが、小言の時間が5分や10分じゃないんです。一時が万事、そうでした」

一座の座員との、おしゃべりも禁止された。理由は「お前はいつか座長になる人間だから気軽に座員と話すな」だった。

先代との13年間、先代の舞台での後見は欠かさずさせられ休むことは許されない。浪曲の同業者との付き合いの機会はない。恋愛も、ご法度だった。給料もなかった。

「私も35歳近くになって一本立ちしようと父に相談しました。答えは、お前の芸では食べてはいけない、でした。どうしても独立したいというと、今までの恩義がわからないのか、勘当だ。となったんです」

昭和37年、父と袂（たもと）をわかち独立。それ以降、父からの支援はなかった。孤立無援、後ろ楯もなく、ただただ芸の研鑽、修練、精進を積んで現・梅鶯は実績を重ね人気を高め、この業界の第一人者となった。

昭和49年に父・初代梅鶯が69歳で死去するが、父娘の間に正式な和解はなかった。

「最近ですよ、こうして父のことを冷静に振り返れるようになったのは。父の教えは芸能生活40年を越えた昨今、よく理解できます。若いときにはわかりませんでしたね」

その教えとは、舞台は台本通りに演じること。三味線によって舞台が左右されないように実力をつけること。女の姿で男の声を作れと、その無理を客は喜ぶ。野次を飛ばす客はほんの少数、いい芸を見せることでその客を沈黙させよう、などなど。

初々しさと美しさがただよう24歳でデビューした当時。「我ながら素直な性格でして、父に右を向いていろと言われたら、それこそ5時間も6時間もそうしていましたよ」

梅鶯師の口から語られる父親への尊敬とあこがれと愛憎。梅鶯師が独力で培ってきた芸への自信と誇りとキャリアが、これまでの苦悩やわだかまりを「恩讐の彼方に」追いやったいま、聞いている当方はさわやかな感動に襲われた。波乱を乗り越えて成熟し深い人生だからこその、舞台の芸だったのだ。

梅鶯師に十八番は多いが当方は『流れる雲（若き日の雲右衛門）』が好きだ。舞台の梅鶯師と、演題の中の芸道に励み逆境に耐える若き桃中軒雲右衛門が二重写しになってくるのだが、

「そうは意識したことはないですね。それより、三河屋梅車が雲右衛門とお浜をきつくなじる場面がありますね。あそこは、父が私を叱った口調を真似て演じているんです。迫力があるでしょう。ほほほ」

おはなし変わって浪曲の魅力とは。

「自由芸というところですね。演出や企画が演者の自由にできる。自由に演者が自己表現できることですね」

浪曲の今後は。

「歴史は繰り返すといいます。殺伐として人間不信が叫ばれる現在、義理や人情をうたう浪曲が見直されるときが来ます。けっして悲観的じゃありませんよ」

座右の銘は。

「和と忍です。和はね、私は人と争うのが大嫌いなの。忍は、いいたいことばかりいうのが民主主義じゃあないんです。忍耐は必要だと思いますよ」

浪曲界にも若手が増えてきましたが、

「いまは新しくて、さまざまなジャンルの音楽があります。その良い部分を工夫して浪曲に取り入れたり、台本を読み込むこんで勉強してほしい。三味線も、語りだす出のキッカケなんていろいろあっていいんです。若手もがんばってほしい。私も、もうひとふんばりしますから」

浪曲修行に「殺されるまでがんばらなきゃ」と命を削ってきた梅鶯師。

一筋に道を極めることや「刻苦精励」が軽んじられるいま、師の体験談は貴重だ。有意義な話が聞けました。ありがとうございました。

先代・梅鶯と。「先代のリズミカルな節は素晴らしかったですよ。大好きでした。先代は父親というより師匠でした。お酒好きで淋しがりやでしたね……」

浪曲…これほどすばらしい芸は他にはないと思います。
浪曲家の皆さん…頑張って下さい。
多くのファンを楽しませて下さい。

12/52

葛飾区・坂本豊吉